

第 25 回 町田市認知症施策推進協議会 議事録

日 時：2025 年 7 月 15 日（火）17：00～18：30

場所：町田市庁舎 2 階 2-2 会議室

出席者：中谷陽明、栗田駿一郎、村山秀人、糟谷英俊、宮地英雄、土屋孝治、井上俊
星野晃、長谷川昌之、玉利裕子、臼井亨、浅沼芳征、井上美恵子
認知症である者 2 名

欠席者：内山加奈絵

【順不同、敬称略】

傍聴者：3 名

資料 1-1「2024 年度町田市の認知症施策の実績について（スケジュール）」

資料 1-2「2024 年度町田市認知症施策実績報告」

資料 2「2025 年度町田市の認知症施策の計画について（スケジュール）」

資料 3「認知症の人の家族等への支援について」

資料 4「認知症疾患医療センターの取り組みについて」

開会挨拶

・早出課長より挨拶

1. 委員委嘱・自己紹介

・町田市認知症施策推進協議会設置要綱第 3 に基づき、新たに 3 名の委員の委嘱と 1 名の委員の選出区分変更を行った。

・各委員より自己紹介

2. 報告事項

（1）2024 年度町田市の認知症施策の実績について

【資料 1-1, 1-2】

・説明〈事務局〉

・質疑応答

〈長谷川委員〉3 点ほどご質問させていただきたい。

1 点目、【資料 1-2】No.2 認知症地域支援推進員の育成について、認知症地域支援推進員現任者研修の中で認知症地域支援推進員同士のネットワーク作りを推進するとあるが、研修の内容を教えてほしい。また、認知症地域支援推進員連絡会で話合われている内容を教えていただきたいので、可能であれば議事録等の共有をお願いしたい。

2 点目、【資料 1-2】No.6-1 認知症サポーター養成講座について、認知症サポーター養成講座及びステップアップ講座を受けた方の年齢層や、どのような環境にいる方が受けているのかを教えていただきたい。

3 点目、【資料 1-2】 No. 10 認知症電話相談について、経年的に相談を受けていると思うが、相談内容について以前と変化があるのか教えていただきたい。また、事業概要に、必要に応じて関係機関と調整を行うとあるが、実際に調整を行ったケースがどのくらいあったのかを教えていただきたい。

〈事務局〉

1 点目について、現任者研修は認知症地域支援推進員が新任者研修受講後に受講できる研修であり、東京都で研修を実施している。研修の内容については、市及び認知症地域支援推進員の間で共有されていない。研修の内容を共有することで、認知症地域支援推進員のさらなる質の向上や、地域で活動する際の参考になると思うので、今後認知症地域支援推進員連絡会等での共有について検討していきたい。

続いて質問のあった認知症地域支援推進員連絡会で話し合っている内容についてだが、認知症地域支援推進員同士の情報共有や、認知症に関する各取組についての課題や今後の対応などについて話し合っている。

3 点目の認知症電話相談について、相談者の続柄としては子どもが1 番多く、内容としては、受診の必要性についてや、対応方法についての相談が多い。年度ごとに相談内容が変わるというわけではなく、概ね先ほどあげた内容の相談が多い。ただ、最近は継続的な相談が増えたように感じている。村山委員から追加等あればお願いしたい。

〈村山副会長〉

事務局が言うとおりの相談内容は大きく変化していない。内容としては、受診勧奨や日常のケア、ご家族の相談が比較的多い。最近は同じ方から相談が多く前回の相談を踏まえた相談をいただくことが多い。

電話相談に関しての2 つ目の質問、他の関係機関への紹介に関しては、なるべくワンストップを目指しており、自主グループや見守りのサービスなどの比較的インフォーマルな社会資源の情報提供をする中で高齢者支援センターを紹介している。また、情報提供として本人、家族に了解いただいたうえで、ケアマネジャーに連絡を取り、サービスの見直し等の相談があった旨を共有している。

〈事務局〉

2 点目の質問、認知症サポーター養成講座の受講者の内訳について、昨年度受講した2,339 名の半分近くが学生である。小学生、中学生、高校生、大学生、全て含めて約1,000 人の方が受講した。その他には、企業の方や、地域の方に受講いただいている。小学生や中学生に実施をすると、学年単位での受講が多いため、人数が非常に多くなったのではないかと推測される。

〈中谷会長〉

認知症地域支援推進員の現任者研修は、各市町村から1 人だけしか受講が出来ないのか。

〈事務局〉

現任者研修については、特段の推薦要件や人数の制限があるというわけではない。ただ、新

任者研修は、東京都が研修費用を負担しているのに対し、現任者研修は、研修受講者が研修費用を負担することになっているので、受講する人数が少ないと推測される。

〈中谷会長〉

金額はいくらか。また今年度受講した1名は、自身で手挙げし研修費用を負担したのか。

〈事務局〉

認知症地域支援推進員は、高齢者支援センターや、鶴川サナトリウム病院に配置されている。今回現任者研修を受けた推進員は、高齢者支援センターの職員であり、必要なスキルを習得できるため、センターとして、研修費用を負担したのではないかと考えている。

現任者研修の金額については、1回の受講料が3万8000円であり、日数は2日間である。

〈中谷会長〉

受講料を町田市が負担することについて、ぜひ検討していただきたい。

〈長谷川委員〉

町田市がお金を出しているのであれば、研修内容の共有を行った方がいいと思ったが、各事業所で受講しているものを無理に共有するというのは、申し訳ないと感じている。ぜひ町田市として、高齢者支援センターの中から1人は現任者研修を受講する等計画をたてていただき、受講した方が連絡会で共有していただくなどを検討いただきたい。

〈井上美恵子委員〉

認知症サポーター養成講座について、小学生、中学生、高校生とあるが、各学年で講座を受ける時間を設けるか設けないかは学校長の判断になるのか。高齢者支援課からは、4月の初めごろに講座について各学校に案内をしていると認識している。以前、中学2年生の講座に行ったが、高齢者支援センターを知っている・聞いたことのある人は191人中1人しかいなかった。「ご年配の困りごと相談はここに行けばいいんだよ」というのを覚えていて欲しいと話をしてきた。認知度の向上は私の課題でもあり、各高齢者支援センターの課題でもあると感じている。小学校の時に聞いたことがある子は中学校でさらに理解度があがると思うので、改めて、小学生や中学生の理解度に合わせた内容で、もう少しアピールしてもいいと思う。

〈事務局〉

年度末ごろに、次年度のカリキュラムをご検討いただく際の参考として、各小中学校の学校長宛てに認知症サポーター養成講座のご案内を出している。また、学校として認知症サポーター養成講座を実施するかについては、学校長の判断や、先生方の判断に委ねている。今後も継続的に通知をしていく必要があると感じている。もう少し積極的に案内をしていくかについては、引き続き検討していきたい。

〈中谷会長〉

通知は直接各学校にしているのか。例えば教育委員会経由とかはないのか。

〈事務局〉

現状、町田市内の40箇所の学校長に直接通知している。

〈中谷会長〉

教育委員会を経由して通知をすれば、もう少し普及する気がするがどうか。

〈事務局〉

教育委員会として一律で、市内の小中学校でといった展開の仕方もあるが、地域での活動等については学校長が学校ごとのカリキュラムを踏まえながら判断いただいている状況だと思う。多くの学校でサポーター養成講座を実施していただけるような機会作っていただけるように、引き続き検討していきたい。また、先ほど井上委員がおっしゃった高齢者支援センターがなかなか知られていないという部分についても、過去のアンケートで認知度が低いような状況もあるので、しっかり支援センターが相談窓口であることを広く市民に知っていただくための取り組みについても検討していきたい。

〈星野委員〉

忠生第2 高齢者支援センターの方でも小学校、中学校にアピールはしている。介護予防サポーター養成講座をやってくれないか、支援センターの話をしてくれないかということで学校の方から依頼を受けることはあるが、いざこちらから電話をしてみると、小中学生のカリキュラムが決まっていたり、義務教育であるため、そこに入り込んでいく隙間がなかなかない。高校はそうでもなく、いくつかの高校で認知症サポーター養成講座を実施することに取り組んでいるが、事務局が言ったように、学校それぞれの取り組みや、義務教育であるがゆえのカリキュラムの決まり等はある。高齢者支援センターの認知度を少しでも上げるように、私どもも頑張っていきたい。

〈認知症である者 委員①〉

まずここに来る前に、本人の会という集まりがあり、そこに呼ばれた。本人の会では、本人がやりたいと思っていることをたくさん挙げて、どうやって実現していくかを話し合っている集まりである。認知症になってもならなくても必ずやりたいと思ったことが野球。小中高、大、全部野球部員で野球をやっていて、引退したら重要なことに気づいた。私たちが小さい頃野球をやっていた原っぱのようなところがほとんどなくなっている。息子とキャッチボールをしようとしてもやる場所がない。そのような場所ぜひ作っていただきたい。当事者がやりたいことを話し合う場があるということは皆さんに知っていたほうがいいんじゃないかと思う。

〈認知症である者 委員②〉 こういう会場に初めて来たので、一生懸命資料を読みながら勉強していきたいと思っている。私も認知症の患者ということになりそうだが、本人はそう思っていない。そういう人が多いと思う。色々な経験や感情を持っているが、周りの人から何か言われたりする認知症の人は結構多いのではないと思う。認知症の人にどのようにアプローチをしていくかというのは、この会の目指しているところかもしれないが、なかなかストライクゾーンに入るのは見つからないかなという気はしている。少しずつ取り上げていって解決策を考えていくしかない、今日初めてこういうのを勉強して思った。

(2) 2025年度町田市の認知症施策の計画について

【資料2】

・説明〈事務局〉

・質疑応答

〈井上美恵子委員〉

アルツハイマー月間の周知における市役所のライトアップについて、去年はたった1日だったと思う。これは電気料等を考えて1日だけなのか。1週間ライトアップするというのはできないものなのか。

〈事務局〉

市役所のライトアップについては、節電等の影響もあるため、1週間のうち2日間のみ、かつイベント及び取り組みごとに最大2日間のみライトアップをすることができるという規定となっている。そのため、今年度については、9月22日の週の月曜日と水曜日にライトアップをする予定となっている。市役所のライトアップ自体は2日間になっているが、ペDESTリアンデッキについては、1か月間ライトアップをする予定となっている。

〈宮地委員〉

計画の中の啓発イベントは、今年度もDサミットという名前で、継続してやっていくような形なのか。

〈事務局〉

普及啓発イベントの名称について、今年度及び今後、まちだDサミットという名前を継続して使い続けていきたいと考えている。

3. 協議事項

(1) 認知症の人の家族介護者等の支援について

【資料3】

・説明〈事務局〉

・質疑応答

〈栗田委員〉

支援案を検討するにあたり、事務局が家族介護者等へのアンケートやヒアリングに基づいて検討を行っている点が非常に重要だと思う。今後、支援案を実施していくにあたり、「やりっぱなし」にならないよう、利用者へアンケート等を実施し、改善を図っていく必要がある。

まずはアンケート結果を踏まえた支援案を実践していただき、効果等を整理していく必要がある。

〈事務局〉

「やりっぱなし」にならないよう努めていきたいと思う。昨年作成したパンフレットについても、今年度は利用してみた感想等をお聞きして、ブラッシュアップする予定。今年度新規で実施する取組も同様に皆様のお声を聞きながら進めて行きたい。

〈糟谷委員〉

パンフレットは非常によくできており、自院にも置いておきたいと思う。希望する医療機関あてに配布すると良いと思う。医師会経由での配布も良いと思う。

〈事務局〉

昨年度作成したパンフレットが 5000 部であり、高齢者支援センター等に配布している。現在の残部数は 1000 部ほどのため、医師会を通して、全医療機関に配布することは難しい。データはあるため、医師会を通してデータを共有させていただき、現物を希望する医療機関へは個別にお渡しできればと思う。

〈糟谷委員〉

医療機関にはまだ支援センターとつながりのない家族が本人を連れてくることがある。そのため、医療機関においてあると相当参考になると思う。

〈事務局〉

支援センターからも、普段高齢者と直接関係があるわけではない場所でパンフレットを配布することはとても重要と意見をもらっている。今後ともぜひご協力頂きたい。

〈長谷川委員〉

例えば酒屋など、日常生活の場にパンフレットを置くことでさらにサービスに繋がる人が増えるのではないかなと思う。ぜひ商業系の方にもパンフレットの配布にご協力頂けると良いと思うが、浅沼委員どうか。

〈浅沼委員〉

出来ないことではない。一つの情報として、まちぐるみで参考にしていけると良いと思う。

〈井上俊委員〉

2 点質問したい。1 点目は、認知症ケアパス「知って安心認知症」が改訂されたそうだが、パンフレットの内容も今後ケアパスに盛り込んでいくのか。ケアパスも追加でいただきパンフレットと一緒に配布したい。

2 点目が、2025 年度に実施する支援案について「家族介護者交流会」があるが、いきなり参加するのはハードルが高いと感じる。認知症サポーター養成講座と合同で開催する機会があれば、認知症サポーター養成講座を受講したついでに交流会に参加するというように、ハードルが下がるのではないかなと思う。

〈事務局〉

ケアパスにも、本人が使えるサービスがまとまっている表が掲載されているが、その他の情報もかなり多く、全体的にボリュームがある冊子となっている。家族介護者の方に対するヒアリングのなかで、介護で忙しい中様々なサービスのチラシや冊子を読む時間がなかったという意見がありました。今回のパンフレットは「一目見てすぐにわかる」といったところがポイントであると考えている。ケアパスと一緒に渡していただくのももちろん一つの方法である。

交流会についても既存事業と絡めて実施することや既存事業のブラッシュアップという点

の含めて検討していきたい。

〈井上美恵子委員〉

家族介護者交流会について、「認知症友の会」では認知症の当事者と家族介護者とサポーターの交流会を2か月に1回ずつ開催している。家族介護者が当事者を一緒に連れてきた際に、家族介護者OBが当事者の対応を行うという場面がある。

家族介護者交流会は認知症サポーターの実習の場になると思う。知識を得た後に、実際の現場をみることでより深い学びに繋がると思うので、認知症サポーター養成講座で交流会を紹介してほしい。

〈事務局〉

事業同士の連携は大切だと思うので、参考にさせていただきたい。

〈認知症である者 委員②〉

家族の人への支援について、成功事例があったらそれを共有するのが一般的な方法。100%とは言わなくても半分以上の人が使えるといった成功事例集が手元にあるといいかと思う。そういうのを参考にして情報を共有できる場があったらいいかもしれない。

〈中谷会長〉

家族に公的なサービスはないので家族支援があった方がいいかもしれない。

〈認知症である者 委員②〉

認知症の介護に対して家族はいろんな人に言いたくないと思う。だから情報の共有と言っても、そう簡単にはいかない気がする。かといって、医師が積極的に最初から参画してくれるという訳でもなさそう。どうやったらいいかというのを具体的にこれから考えないといけない。

成功例があればそういうのを情報共有するような形を取ればいいのかという気がする。

4. その他

(1) 認知症疾患医療センターの実績と2025年度の取り組みについて 【資料4】

・説明〈村山副会長〉

〈糟谷委員〉

自身のクリニックではJR相模原駅のすぐそばの相模原市認知症疾患医療センターの総合相模更生病院と連携している。認知症疾患医療センターには軽度認知障害の診断をきちんとできないといけないと思う。たくさんいるはずのMCIの患者さんが路頭に迷い、治療を受けられずにいるというのを非常に危惧している。

(2) 各委員からの報告

〈友の会 井上委員〉

チラシをお渡ししている『ばけますからよろしくお願ひします』という映画の上映会を開催予定。

世界アルツハイマー月間の初日である 9 月 1 日に行う。

第一部と第二部があり、第一部は日中開催で一般の人向け。第二部は夜間に開催し、専門職の人が仕事後でも観られるようにした。

映画の中ではヘルパーや訪問薬剤師・訪問看護師が介入しているので、映画を観ながら家族や介護者の接し方等色々な場面を観てうなずける部分もあるかと思う。皆さんご来場ください。

5. 次回の予定

第 2 回 町田市認知症施策推進協議会 2026 年 2 月頃